

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	(株)エイシーエス		
事業所名	グループホーム花みず木		
所在地	福岡市博多区西月隈3-3-54		
自己評価作成日	令和2年2月25日	評価結果確定日	令和2年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	令和2年3月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

当施設は解説して、18年を迎え、常に基本であるACS(快適な介護を提供する)の理念を持って、利用者への支援・介護につとめている。外出レクリエーションや毎日のレクリエーションを楽しんでいただけるように、スタッフ間で創意工夫して、色々な企画の作成や、実施をしている。同敷地内の2施設と連携・協力しており、ふれあいカフェの開催など地域住民との理解も深めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム花みず木」は2階建の2ユニットで、都市高運月隈ランプに近く、周辺には工場や事務所などが多い環境にはあるが、事業所と同じ施設内には系列の入居施設(住宅型・介護付の2施設)、ヘルパーステーションなどがあり、その一角は、庭木に囲まれ、ペットの犬も飼われるなど、時間の流れが止まったようなゆったりとした空間になっている。事業所は開設後17年経過しており、敷地内の他施設とも連携をとって、健康な方から介護が必要な方まで状態に合わせて一体的にサービスを提供できることが可能となっている。法人名のACS(Amenity=快適さ、Care=ケア、Service=サービス)を頭文字とした法人共有の理念があり、そのもとの、外出の機会を増やしたり、日常的に一緒に取り組むようにしたりすることで、認知症の方の活性化を目指している。地域との交流を図る中で、職員の働きやすさを求めている改善も見られている。今後も地域を支える活躍がますます期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ACSの基本理念を確認して、各スタッフが一年間の目標を決めて提出している。昨年度の目標に対し、実践できたかどうか自己評価している。	法人名のACS(Amenity、Care、Service)を頭文字とした法人共有の理念があり、施設内にも掲示、職員にも浸透している。毎年理念につながる個人目標を立て、施設長との個人面談(6ヶ月に1回)などを通して振り返る。理念に基づくケアの実践、目標を達成しようとする前向きな認識につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃や総会に参加している。町内の夏祭りに参加している。	同じ敷地内の系列施設内にてふれあいカフェを年4回開催、イベントとして、町内会長や民生委員の協力、コーラスなどのボランティアの参加もある。また、餅つき(年1回)には地域の方の参加もある。他に、公民館の行事への参加(回覧板や役員の方を通して案内がある)、町内清掃への協力を行うなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議にて、花みず木での支援や介護を理解してもらっている。併設施設で開催しているふれあいカフェに参加していただいて交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議において、サービス提供の状況や、レクリエーション等の報告を行い、理解を深めてもらっている。認知症への質問や居宅での介護の相談や議事内容に沿ったアドバイスを受けている。	2ヶ月ごとに定期的に開催している。町内会長、民生委員、市・包括・社共の職員らの参加があり、定例報告にとどまらず、意見やアドバイスなども積極的になされ、またテーマを絞って調剤薬局から薬剤師を招くなどの工夫もしている。議事録は施設内に掲示、また家族への報告は、毎月郵送する「花だより」の中で行っている。	家族にも毎回案内しているが参加には至っていない。他の出席者とのからみもあって、曜日や時間を変更する事はできないとのことだが、ふれあいカフェなどの行事と兼ねるなどの工夫をして働き掛けをしていただき、さらに充実した会議になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の入所者がおられるので、福祉課や指導課への相談等行っている。推進会議への参加も依頼している。	運営推進会議への参加の他、行政や包括とは諸報告、困難事例の相談、入居に関しての仲介業者の紹介などに加え、区とは生活保護(利用者2名)のことで日頃からかかわりがある。連絡は密にとっており、円満な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回幹部会議(施設長含め)で身体拘束の取り組みの評価を行っている。また、施設内で研修を行っている。スピーチロックをしないために出勤したスタッフで唱和している。	身体拘束防止委員会の開催、研修の実施、日常的な職員相互での注意などにより、スピーチロックも含めたところで職員は認識を深めている。現在身体拘束は行われていない。玄関も、日中は施錠していないが、かつて帰宅願望の強い方の離脱事故があったこともあって、モニターとチャイムの設置によって対処している。徘徊SOSの加入もあり、近隣の方や家族の理解もある。	

2020.3自己評価グループホーム花みず木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待かどうかの判断もスタッフ全員で行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学習して職員一人一人の理解を深めてもらっている。	現在1名、成年後見制度の利用者がいる。職員は実例に加え、定例の研修により、制度についての理解を深めている。必要時には、管理者が行政(区)や外部の関係者と連携して対応する体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をして、理解してもらえたことを確認している。契約以降も質問等に応じている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、管理者が日常生活の様子をお話している。家族からの要望や苦情を聞いており、当施設からの家族への希望もお願いしている。	家族の面会の機会は多く、職員はなるべく直接個別で話をするようにしている。家族会(年2回)の開催により、参加家族間での交流も図られている。意見箱の設置(ただし投函はない)、個別のお便り(毎月の「花だより」)や電話での報告なども行っている。利用者からは、日常的なつづやきや表情の変化から気持ちを察している。利用者・家族の意見は内部で共有して、対応につなげている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングでスタッフの意見や提案を聞き、幹部会議で話し合っている。	毎月のミーティングは原則全員が参加、入居者の状況やケアに関する報告の他、毎月の取り組み、行事についての話し合いや意見交換が行われる。日頃も気づいたことは随時提案や意見ができる環境にあり、それに対して幹部は速やかに対応している。年2回、職員の評価と個別相談の機会としての面談もなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の査定を行い、施設長と面談を1年に2回行っている。職員の希望や、苦情が言える環境を整備している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	経験や性別、年齢で区別していない。現在就業中の職員へも、各自が十分に能力や知識、介護技術を活かして、働ける環境を整えている。	職員の男女比は3:7程度で、20~60歳代で層が厚い。資格取得や外部研修受講などへの支援がある。希望休暇や子育て中の職員に対する体制上の支援があるが、休憩時間はユニットや状況によって十分に取れない時もある。編み物や作品製作など、職員それぞれの特技や経験を活かした役割分担の中で、能力発揮の機会もある。	



2020.3自己評価グループホーム花みず木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングで、改善を促したり個別に指導している。	高齢者の人権や接し方については、会議などで伝達がなされている。	事業所としての継続した人権教育、啓発活動の取組として、外部研修の他に、必要であればDVDの貸し出しや講師派遣の利用なども含めて、定期的な研修、勉強会の実施をお願いしたい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ間で相互トレーニングをやっている。管理者も各職員に適したトレーニングやアドバイスを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入所者の体調不良や不穏があり、同業者との交流の機会がなかった。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話や家族からの情報収集に努め、本人が安心できる環境を提供し、信頼関係を構築している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や苦情を伺い、家族との情報収集を基に、信頼できる関係を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体・精神面や経済面等考慮して、必要性を随時検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的雰囲気を提供し、職員と本人が常にコミュニケーションが取れる関係作りをしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人が良好な関係を保てるよう支援している。		

2020.3自己評価グループホーム花みず木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時、親類や友人の面会を受け入れ、馴染みの関係が途切れない様に対応している。	入居前からの友人や知人なども自由に訪ねてくる。生け花を習い続けていた利用者のところに月1回今でも先生が訪れている。家族が馴染みの美容室にお連れしたり、一時帰宅や外泊もされたりしている。職員は、個人台帳の整備や家族からの聴き取りなどにより、関係が疎遠にならないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係が維持出来るように対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、施設や病院へ面会やお見舞いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重し家族とも話し合い、把握している	入居時のアセスメントは計画作成担当者が行い、それ以降は担当職員に引き継いでいく。思いや意向は、本人・家族・入居前からの関係機関からの情報収集や、かかりつけ医や携わる職員からの聴き取りなどを行い、意思疎通の難しい利用者からは、日頃の表情や状態から判断して、意向の把握に努める。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に簡単な聞き取りを行い、入居してから少しずつ本人、家族に本人の歴史等の把握に取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアにあたり記録をして生活パターンの把握に取り組んでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや評価なども本人、家族を中心に話し合い、スタッフのアイデアなども取り込んでプランを作成している。	ケアプランは主に計画作成担当者が行い、ケアマネジャーが総括する。モニタリングは担当を振り分け、評価は全体で行い、意見や提案も出し合っている。プランは3ヶ月～半年ごとに見直し、その際に担当者会議も開催、家族や医師、訪問マッサージなど携わる方々の意見も議事録に残され、プランにも反映されている。現状に即した介護計画を全員が共有して介護にあたっている。	

2020.3自己評価グループホーム花みず木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を中心にスタッフと話し合いプランの見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々なサービスを模索しながら取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージなど取り入れている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の訪問診療で対応している。また、家族の希望の受診やかかりつけ医とも継続している。	元々のかかりつけの継続(その場合は原則家族が通院)もできるが、現状では全員が提携医を選択されており、歯科も含めて訪問診療を受け、また精神科などの他科受診には職員が通院の支援を行っている。受診の内容は全職員や家族とも、情報として共有している。隣接する他事業所に看護師がおり、必要時には連携が取れる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制なので、電話で相談したり受診時にも看護等を指導していただいている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	swや担当医、栄養士と話し合い早期の退院や生活状況、健康状態などを話し合い、関係作りを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが重度化した時のことを考え、他施設の紹介や当施設内で出来る事を家族に説明している。また、主治医と話し合いを行っている。	看取りを行わない旨を指針として定め、契約時に家族に説明して了解を得ている。重度化の際は、できる限りのことはぎりぎりまで事業所で支援するが、話し合いのうえ、医師の指示の下で、病院などへの紹介を行う。提携医は夜間救急や24時間対応などが可能である。	

2020.3自己評価グループホーム花みず木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時に研修を行っている。またNSに教えていただいている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を実施している。災害訓練の実施や非常食の備蓄や点検も行っている。	訓練は年2回実施し、うち1回は消防署が立ち会う。夜間想定も行っており、消火器の扱いなどの指導もなされている。マニュアルに基づく避難の方法や担当(役割)などは職員も認識している。運営推進会議時に地域への協力も依頼しており、報告もしている。水、食料品などの備蓄物も1週間程度備えている。	地域が行う訓練への参加を前向きに考えてみたらいかがだろうか。また、事業所で行う訓練の中に、水害対策(事業所近辺はかつて水害の影響を受けたことがあったと聞く)の訓練を追加することを計画してみたらいかがだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入所者の生活感や性格を把握して、尊重した声掛けを行っている。個人情報保護については、内部研修を実施して、スタッフ間で共有している。	職員は、一人ひとりの利用者に合わせて声掛けや接し方を意識して実践しており、常に職員相互で注意し合ったり、管理者が指摘をしたりしている。写真など肖像の利用に関しても、目的ごとに説明し書面での同意を得ている。居室も基本的には閉めてプライバシーを確保している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望を伺い、自分で決める事が出来るよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入所者のペースで生活できるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、希望を聴いて支援に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族からの情報を基に。嗜好に合った料理を提供している。食事の準備や片づけも一緒に行っている。	1,2Fそれぞれで、利用者に意見を求めるなどしながらメニューを作成、調理も行う。食材の買い出し、準備、盛り付け、配下膳など、できる方には手伝ってもらう。職員も同じ時間に同じ物を食べており、その中で感想を聞き取っている。食事形態や療養食などにも柔軟に対応できる。調理レク、行事食(巻き寿司など)、外食レクなども取り入れ、食事が楽しいひとときになるよう努めている。	



2020.3自己評価グループホーム花みず木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者一人一人の健康状態や能力に応じた対応をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後や毎食後の口腔ケアを実施している。夕食後に義歯を預かり、消毒をして、起床時の口腔ケア後に渡して、装着してもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせて、日中夜間のトイレ誘導を実施している。夜間帯にポータブルトイレの使用や、パットのサイズを替えることなどで、その人に応じた排泄支援に努めている。	ユニットごとでやり方の違いはあるが、利用者の排泄チェックを行って、職員全員がパターンを把握し、現状の維持または改善に向けて取り組んでいる。実際に、適切なタイミングで声掛けすることにより、汚染が減ったケースなどもある。おむつ対応の方に、便が出たら教えてもらうようにカードを渡して、さりげなく知らせることができるよう配慮にも努めている。介助に適したトイレが、各ユニットに2ヶ所ずつあり、また自室でのポータブルトイレ利用者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックや食事の工夫をしており、運動などで予防や改善に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の体調を考慮して、本人の希望に合った入浴を提供して楽しんでいただけるよう支援している。	1・2Fそれぞれ共通の造りの家庭用のユニットバスがある。掃除も行き届き清潔にされている。基本は週2～3回の入浴だが、希望により回数を増やすことは可。拒まれる方には、声の掛け方や時間を変えたりして対応、それでも難しい時には清拭などで保清している。常時寝たきりの方に複数の職員で別途簡易浴槽を使って対応して、家族からは喜ばれている。皮膚観察など健康管理の場としても役立てている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の希望で自室で休憩を取ってもらっている。夜間は照明や空調などに配慮して安眠できるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護婦・薬剤師の説明を全員が理解している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のある方は随時出来るよう支援している。活け花、3B体操、習字などを実施しており、その人の能力や得意な事を活かした役割をしていただいている。		



2020.3自己評価グループホーム花みず木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物同行や近所の散歩など実施している。外出レクリエーションでは、家族の協力を出掛ける事もあり、楽しんでいただいている。	外出レクには力を入れており、毎月のように車での外出行事(海の中道や呼子など遠方の外出も多い)を行っている。日常的には、近くのスーパーへの食材の買物やショッピングモール、散歩などに行く。リクライニング式の車いすの方が個別で介護タクシーでの外出にあたって支援を行うなど、利用者の状況も考慮しての取り組みを行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は保管庫で預かっており、本人の希望に応じて使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者の希望に沿うよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度調節やテレビの音やカーテンによる採光の調整等、随時気を配っている。展示品や花などで季節を感じれるように工夫をしている。	ユニットは1・2Fに配置され、造りは共通。床はビニール材のフローリング調。季節感にあふれた作品や花、写真などに囲まれて、ゆったりとくつろいで過ごすことができる。窓からの採光のほか、照明も多数あり、室内は明るい。温度やにおいにも配慮がなされ、快適な空間がつけられている。廊下とリビングに面して居室が配置されており、見渡せるようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の入所者が視界に入らない場所やテレビの前に移ってもらっている。レクリエーションやティータイム等でゆっくり会話ができるよう、他のテーブルに移動することがある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家電を持って来て頂き、絵画や写真等、落ち着ける空間作りしてもらっている。	各居室には電動介護ベッド、クローゼットが備え付けられている。各自テレビ、ラジオ、ソファなど、使い慣れた物、馴染んだ物などを自由に持ち込んではあるが、それでものんびり休むのに十分なスペースがある。畳を敷いて和室にする事も可能で、布団で休むこともできる。誕生日の写真、家族の作品なども飾られており、個性的な居室で、居心地よく過ごせるような配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの能力が活かせるように工夫しており、安全でその人らしい生活ができるように支援している。		